

# シンポジウム「南九州の火山防災を考える」に見る住民意見 火山防災の顧客研究

## Symposium on Prevention of Volcanic Disasters in South Kyushu area: importance of customer survey

# 林 信太郎[1]; 伊藤 英之[2]; シンポジウム「南九州の火山防災を考える」実行委員会 林信太郎[3]

# Shintaro Hayashi[1]; Hideyuki Itoh[2]; Shinaro Hayashi Implementation Committee of Symposium on Prevention of Volcanic Disasters in South Kyushu area[3]

[1] 秋大・教文・地学; [2] (財)砂防センター; [3] -

[1] Dep. of Earth Sci., Akita Univ.; [2] STC; [3] -

「シンポジウム 南九州の火山防災を考える 霧島, 桜島, そして小説「死都日本」」が, 平成 16 年 11 月 6 日(土)~7 日(日), 宮崎市の宮日会館宮日ホールで約 200 人の参加者を集めて開催された。

南九州には霧島や桜島をはじめ, 数多くの火山がある。そしてそれらの火山は昔からくり返し大きな噴火や小さな噴火を行ってきた。またごくごくまれには, 小説「死都日本」に描かれているような巨大噴火も行われた。九州の大地の多くの部分はこのような噴火によって作られ, 住民はそこから美しい景色・温泉や安定した湧水, 広い平地など様々な「火山の恵み」を得ている。このシンポジウムの基調になったのは, 時に猛威をふるう火山といかに共生し, 火山を生活や潤いの場として安全に利用していくか? という点にあった。

シンポジウム初日は, 宮崎県を舞台とした火山冒険小説「死都日本」の著者である, 石黒耀氏の基調講演「高千穂降臨伝説から辿る火山神の N 源」からはじまった。次に南九州の火山と大規模火砕流について鹿児島大学の小林哲夫教授と熊本大学の横山勝三教授から講演していただいた。また, 火山観測や火山砂防について京都大学の鍵山恒臣教授および国土交通省九州地方整備局の判田乾一建設専門官から講演をいただいた。

そして, これらの講演を踏まえて, 元 NHK 解説委員の伊藤和明氏をコーディネータにパネルディスカッション「火山との共生を目指して」が行われた。パネラーには住民代表の方も 3 名にも加わっていただき, 住民・行政・火山学者が同じテーブルについた。また, 対等の立場で議論していただけるようあいうえお順でご着席いただいた。実行委員会が予想していたよりもはるかに活発な討論が行われ, 地域住民のニーズに基づいた火山防災を考えるたくさんのヒントが得られた。例えば, 住民パネラーの意見をいくつかあげると「子供達に環境学習として火山を学ばせ, 私たちも一緒に勉強してきたい」「南九州は世界に誇れる観光地なので, 火山災害からの安全を, 観光に来たお客様をおもてなしするという見地から考えたい」「防災という一歩引いてしまう。子供達と語り合える, 見て楽しいハザードマップができないものか?」「啓蒙とか教育とか言われても 眠くなってしまう。ラブストーリーを取り込んだような新しい伝え方はないものだろうか?」などがあった。今後, ハザードマップを作るにあたっては顧客である地域住民の声を生かしていく必要性を強く感じさせた。